

## 第2学年〇組 道徳学習指導案

指導者

- 1 主題名 わたしの町 低学年4-(4) 郷土愛  
資料名 「町の大いちょうの木」 (文溪堂)

### 2 主題設定の理由

- 本主題は、「郷土の文化や自然に親しむことにより、そこに住む人とのつながりを感じさせ、地域を大切にしていこうとする心情を育てる」ことを主なねらいとしている。

自分の育った郷土の文化や自然、人々とのかかわりは、自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたって大きな精神的支えとなるものである。しかし、日々の生活の中で地域のことについて自ら意識して考える機会は少ない。

そこで郷土との積極的で主体的なかかわりを通して郷土を愛する心を育て、郷土をよりよくしていこうとする態度を育成する必要がある。地域の「ひと・もの・こと」に目を向け考える機会を設け、地域を改めて見つめ直すことで、地域に対する思いを深めたり親しみを持ったりすることができるであろう。人間関係が希薄になっている社会状況の中で、そこに住む人とのつながりを感じさせ、地域を大切にしていこうとする心情を養うことは、大変意義深いと考える。

- 本学級の児童は、幼児期の自己中心性から少しずつ抜け出し、仲間集団との遊びもできるようになってきた。行動範囲も広がり、校区の公園や友だちの家など遠くにも出かけるようになってきた。また、生活科においては、地域にある「ひと・もの・こと」に目を向けて「〇〇〇〇の町たんけん」の学習をしてきた。地域のお祭りや、ドッジボール大会・廃品回収などにも参加し、「わたしの町」としての意識も少しずつ芽生え始めている。しかし、それらの意味や支えている人々の思いを理解するには至っていない。このような児童に、地域に古くからあるものを大切にしようとする人々の思いに触れさせることは、自分の町を見つめ直すきっかけともなり意義深いと考える。

- 本資料は、主人公の「なつみ」が、おじいさんから町のシンボルとなっている樹齢四百年の「町の大いちょうの木」の話聞き、いちょうの木が町の人々の心のよりどころになっていることに改めて気づき、自分の町がより大好きになるという話である。

本時指導にあたっては、導入段階で価値への方向付けを容易にするために、児童がよく知っている〇〇神社の銀杏の木の写真を提示し、「わたしたちがすむ町について考えよう。」というめあてを意識化させる。展開前段では、資料への興味・関心を高めるために資料の「大いちょうの木」の写真を大きく拡大し、話の内容が理解しやすいようにおじいさんの話を挿絵にして提示する。さらに「なつみ」への共感的理解を深めるために、道徳ノートの吹き出しに気持ちを書かせ話し合いをさせる。展開後段では価値の一般化を図るために、心のノートを読み、生活科の町探検のことを想起させながら、自分の生活を振り返らせる。終末では、校区の中心にあり、お祭りへの参加など児童には馴染みの深い〇〇神社の宮司さんをゲストティーチャーとして迎え話を聞き、価値への関心の継続を図る。

### 3 本時のねらい

郷土の文化や自然に親しむことにより、そこに住む人とのつながりを感じさせ、地域を大切にしていこうとする心情を育てる。

- 4 本時 平成20年11月19日(水) 第5校時 第2学年〇組教室に於いて

### 5 地域との関連(地域のひと・もの・ことの活用)

地域題材: 〇〇神社の大銀杏の木、祇園河童祭り 地域人材: 〇〇神社宮司

- 6 準備 資料「町の大いちょうの木」、資料挿絵、道徳ノート、こころのノート  
〇〇神社・大銀杏などの写真

7 展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 ○○神社の大銀杏の写真を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ○○神社の銀杏の木だ。</li> <li>○ 町探検で見えたよ。</li> <li>○ 大きかったよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ねらいとする価値への方向付けのために、児童がよく知っている○○神社の銀杏の木の写真を提示する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             めあて わたしたちがすむ町について考えよう。           </div>		
展 開 前 段	<p>2 資料「町の大いちょうの木」を読んで話し合う。</p> <p>(1) おじいさんの話を聞く前に、いちょうの木を見ている「なつみ」の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大きい木だなあ。</li> <li>○ 昔からある木だな。</li> <li>○ すごいなあ。</li> </ul> <p>(2) おじいさんの話を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どものころ登って遊んだ。</li> <li>○ 雷が落ちてみんなで消した。</li> <li>○ 戦争で焼けたのに葉が出てきた。</li> <li>○ 町の人をはげましてくれた。</li> </ul> <p>(3) おじいさんの話を聞いたあと、いちょうの木を見ている「なつみ」の気持ちを道徳ノートに書き話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師の範読を通して、資料「町の大いちょうの木」の概要をつかませる。</li> <li>○ 資料への興味・関心が高まるように、「大いちょうの木」の写真は、大きく拡大して掲示する。</li> <li>○ 「大いちょうの木」の大きさを実感させるために、高さや幹の太さを具体的に説明する。</li> <li>○ 町の人々が「大いちょうの木」を、ずっと大切にしていることや、木の生命力に気付かせるために、おじいさんの話を挿絵にして提示する。</li> <li>○ いちょうの木が大好きな「なつみ」への共感的な理解を深めるために、大いちょうを見上げる「なつみ」のようすを動作化させ、道徳ノートの吹き出しに気持ちを書かせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             おじいさんの話を聞いたあと、「なつみ」はどんな気持ちでいちょうの木を見ているでしょう。           </div>		
展 開 後 段	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二度の火事にも負けないなんてすごい木だな。</li> <li>○ みんな大切にしてきたんだな。</li> <li>○ これからも大切にしたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ おじいさんの話を聞く前と、聞いた後の「なつみ」のいちょうに対する気持ちの深まりを感じ取らせる。</li> </ul>
展 開 後 段	<p>3 自分の生活をふり返り、郷土にある自慢について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ○○神社の銀杏の木や河童祭り。</li> <li>○ 商店街にあるたくさんのお店。</li> <li>○ 名柄川や船。</li> <li>○ 毎朝、あいさつをしてくれる人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ものだけでなく、こと（行事や祭りなど）や人にも目を向けさせるために、心のノート「あなたがそだつ町」（80～81 ページ）を読ませる。</li> <li>○ 自分の住んでいる町に目を向けさせるために、生活科で学習した「○○○○町たんけん」や「お祭りの話」を想起させる。</li> </ul>
終 末	<p>4 ゲストティーチャー「○○神社」の宮司さんの話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町の中心にあり、町探検・お祭りへの参加など、児童に馴染みの深い「○○神社」の宮司さんに話をしてもらおう。このことで自分の町のよさを改めて見つめ直し、郷土を大切にしようとする意識の継続を図る。</li> </ul>

8 板書計画

○ ○ ○

わたしたちの町「○○○○」のじまん



おじいさんの話を聞いて  
大いちょうを見ているなつみの気持ち

二どのかじにもまけないなんてすごいな。  
みんなたいせつにしてきたんだな。  
これからもたいせつにしたいな。

おじいさんの話

挿絵 1

- ・ 子どものころあそんだ。
- ・ 二どもやけた。(かみなり・せんそう)
- ・ 町のみんなをあげましてくれた。

挿絵 2

挿絵 3

大きいなあ。すごいな。ふるい木だな。

「町の大きいちょうの木」

大いちょうを見ているなつみの気持ち

めあて

わたしたちがすむ町について考えよう。





- ・ ○○神社
- ・ 大銀杏

9 道徳ノート

○ ○ ○

わたしたちの町「○○○○」のじまん



おじいさんの話を聞いたあと  
大いちょうを見ている「なつみ」の気持ち。

めあて

わたしたちがすむ町について考えよう。

道徳ノート 月 日 二の ( )

「町の大きいちょうの木」

わたしたちがすむ町について考えよう。

○ ○ ○

わたしたちの町「○○○○」のじまん